

尊光寺報

第126号

徳島県阿波市市場
町大野島字天神41
尊光寺

正信偈講座⑫

(赤い経本一〇六)

能発一念喜愛心 不断煩惱得涅槃

【訓読】よく一念喜愛の心を発すれば、煩惱を断ぜずして涅槃を得るなり。

【現代語訳】信心をいただいて大いに喜び敬う人は、ただちに阿弥陀仏の願いの力によつて迷いの世界のきずなが断ち切られる。

前回は「一念喜愛心」について、幼子が親に身をゆだねているような二心のない心の様子であると説明しました。今回はその続きにある「不断煩惱得涅槃」について味わつて参ります。

まず「煩惱」とは、一体何でありましょうか。おおまかに説明をすると、「私たちの心と身体を悩ませ乱れさせ、仏教の理解をさまたげるもの」であります。この煩惱によつて私たちは様々な悪い行い(悪業ともいいます)をなし、迷いの世界に繋ぎ止められ、苦しみという結果を引き受けなければならぬと仏教では考えます。

煩惱は、仏典の中では様々に言い換えられて表現されます。我々を迷いの世界に漂わせるから「惑」と言い、善を損なうから「毒」、迷いの世界に縛り付けるものであるから「縛」、心身にまとわりつき自由を奪うので「纏」、人を追い立て使役するから「使」、激流のように我々を押し流すので「暴流」など、どれも良い意味ではありませんが、煩惱のことをうまく表現した言葉です。

また、「百八煩惱」という言葉もあります。これは煩惱を百八に分類して数えるものですが、私たちの心の悪いところは皆さんも自覚があるうと思えますから、その数にこだわるのは無意味でしょう。ましてや除夜の鐘を百八つ突けば煩惱が消え去るなどということはなく、この一年も百八と言われる煩惱に振り回されて生きてきたと反省すべきでありましょう。

いくつか代表的な煩惱をここでは紹介をしておきます。まずは「三毒」と呼ばれる根本煩惱です。

三毒の一つは「貪欲」です、一般的には「どんよく」と読みますが、仏教用語としては「とんよく」と読みます。むさぼりの心、足を知らず、と表現されます。どこまでもどこまでも満足を知らず求める心です。我々に一番身

近な煩惱と言つてもいいかもしれせん。もつとお金があれば、あの人の持つているアレが欲しい、今自分の持つているものが惜しくて、そんな心は誰の心にも潜んでいるのではないのでしょうか。

つづいての三毒は「瞋恚」、怒り憎む心です。他人に何かを言われたりされたりして腹を立てるというのを思い浮かべますが、仏教ではさらに掘り下げて、「自分の心になわなないものに對する嫌悪」という説明があります。他人に對して怒つておられると思つても、その原因は自分の心に潜んでいるのです。相手の立場を思えばその怒りは治まる時もある。深い思し召しだと思ひます。

最後の三毒は「愚痴」です。一般用語では愚かで知恵の無いことを言つたり、「愚痴を言う」言つても仕方無いことをあやだこうだと言つたりした使われ方がありますが、仏教用語の愚痴とは、「仏教の教えを知らず、また道理やものごとをありのままに知見することができないこと」とあります。つまり、ものごとの本當の道理を知らないからこそ口から愚痴がこぼれるのでしよう。

この三毒の他に、「慢」「疑」「うたがひ」「悪見」自身勝手な見解を加えた六つを根本煩惱と呼び、この根本煩惱に従属的な煩惱を様々に数えて全体を百八煩惱などと分類します。ひとつひとつ、經典の中では解説があるのですが、特に「慢」には、自分を他人と比べて誇る心、他人と比べて實際上にへりくだる心などが分類され、隣の芝は青いだとか、人と比べながら生きている我々の心のなんと浅ましい様子が解説されています。

以上のように煩惱を見てきました。普段私たちは、自分の外に何か原因があつて、私の心を乱し、貪欲・瞋恚・愚痴などの心が起こると思つていますが、どうやらそうではないことが理解できると思ひます。仏教は根本的に私たちの心を問題としているのです。心が変われば世界は穏やかに見えると、そうお釈迦さまは教えてくれているのです。

仏道修行とは、この煩惱を一つ一つ退治し、さとりへと向かつて歩み続けなければならぬのです。そしてこの煩惱の無くなつた穏やかな境地を涅槃といい、そこに至つた人を仏(ブツ)と呼ぶのです。この煩惱の退治のために、生まれ変わり死に変わりを繰り返しながら仏道修行を続けなければならず、煩惱を断たずに仏に成るということはありません。

しかし「正信偈」には「不断煩惱得涅槃」(煩惱を断ぜずして涅槃を得る)とあります。一体どういふことでしょうか。

親鸞聖人のお示しによると、自分で煩惱を断ずる必要は無く、煩惱は阿弥陀如来のはたらきによつて断じられるのだ、という意味なのです。自らの力では煩惱を断つことができず、煩惱に沈み苦しみがいてる我々を救いの目当てとして、阿弥陀如来は「南無阿弥陀仏」ひとつを選び、まかせよ、称え

法要・行事のご案内

◎ 秋の彼岸会永代経法要

【9月23・24日】西日とも午後一時よりお勤め

※24日は仏教婦人会による阿北老人ホームお接待日です。準備ご協力くださる方は9時頃よりお願い致します。

○お念仏に出会い西方の極楽浄土へと往かれた方を偲び、遺された私も、阿弥陀如来のお慈悲に包まれて、同じ浄土への道を今歩ませてくださいることを聞かせていただきましょう。

〈法話 本願寺派布教使 末澤真吾師〉

◎ 宗祖親鸞聖人 報恩講法要

【12月14日 土曜日】

午後1時 日中法要・法話

午後5時 お齋(食事)

午後6時 大速夜法要・御伝鈔拝読 法話

【12月15日 日曜日】

午前10時 総永代経法要 法話

お昼 お齋(食事)

午後1時 報恩講御満座・稚児参詣 御伝鈔拝読 法話

午後3時 奉賛コンサート [Jim's Guitars]

〈法話 本願寺派布教使 龍田智 師〉

○宗祖親鸞聖人の遺徳を偲び、念仏に出逢えたことを悦ばせて頂く、一年で一番大切な法要です。お誘い合わせの上、参拝下さい。なお15日は参拝の皆様にお齋(昼食)を準備しております。

※本年度の執行当番は知恵島組(知恵島・三軒屋)です。よろしくお願ひ致します。

◎ 除夜の鐘

【12月31日】午後11時40分頃より

鐘の音とお念仏で、心新たに年を迎えましょう。

どなた様も鐘をつくことができます。

よ」とおつちやつていふのです。その「南無阿弥陀仏」には自分で断じることのできない煩惱を問題とせず、どのような人生を歩もうとも、さとりの世界である浄土へ生まれさせる功德に満ちあふれていると、親鸞聖人は念仏を喜ばれているのです。

つづく

副住職、阿波市の教育講座に出講

このたび阿波市の人権教育講座「心のリフォーム学級」の講師を副住職が引き受けました。日程は左の通りです。

講題「ブツダに学ぶ心豊かに生きるヒント」

9月3日(火)阿波久勝公民館

9月11日(水)市場公民館

9月18日(水)土成トレーニングセンター一階会議室

9月25日(水)吉野コミュニティセンター

時間はいずれも午後2時から3時半頃まで

問い合わせ先：阿波市教育委員会社会教育課

(0883・36・8742)

どなたでも聴講できるようです。

本願寺安居に本年も参加

本年も本願寺の安居(あんご)が7月18日から7月31日まで開催され、副住職が安居専修科仏教学概論講師、安居事務所主事として参加いたしました。

安居とは、お釈迦さまの時代、雨期には外を歩くことが難しく、また土から湧き出るいのちの殺生を避けるため、修行者が雨をしのげる一所に集まり修行に集中したことに由来します。本願寺では寛永十六(1639)年に学寮(現在の龍谷大学)が創立された翌年より現在に続く安居が行われており、仏教・浄土真宗の学問研鑽の成果を結集するものとされています。

本願寺安居は龍谷大学大宮学舎本館講堂(NEA大河ドラマ「いだてん」で東京高等師範学校として映っている建物)を会場として、毎朝七時過ぎより勤行があり、その後、学徳兼備の講師和上より三コマの講義、その後、問者と答者に分かれ議論をしながら理解を深める会読(かいどく)が行われます。若い者は二十



講堂にはご本尊と講義台



会場の龍谷大学大宮学舎(重要文化財)

歳代から高齢の方は八十歳代まで、全国各地から百名を超える僧侶が集まり二週間にわたって開催されます。

副住職は安居専修科講師として、安居に出席する資格をまだ得ていない僧侶に対し、仏教学概論の講義を行いました。

どの参加者も、うだる暑さの京都に來られ学問をされるその姿は尊い姿であります。特に今年は会場のクーラー故障というアクシデントに見舞われました。汗をかきながら昔の先輩僧侶の姿を思い、時には睡魔で遠のく意識のなか、阿弥陀さまの「南無阿弥陀仏」のお救いが間違ひなくこの私に届いていることを、ともに確認し喜ばせていただく有り難い安居でありました。

仏教遺跡の旅

「インドネシア」ボロブドゥールを訪ねて

前回まで連載したインドネシアのサンチー仏塔、アジヤンターとエローラの石窟寺院を訪ねる旅から二年が経った。どこかに行きたくウズウズしていた副住職は、八月のお盆明けに法事の隙間を見つけて、インドネシアを訪ねた。目指すはボロブドゥール遺跡。世界最大級の仏教遺跡である。

関西空港からガルーダインドネシア航空を利用し、バリ島で乗継ぎ、ジョグジャカルタの空港まで行かなくてはならない。夏休み後半と言うこともあり、バリ島までの機内は若い日本人が多いのであるが、そこからの乗継ぎとなる。日本人の姿はほぼ見なくなる。国際線ターミナルを出て国内線乗継ぎの手続きを済ませ飛行機を待つが一向



安居最終日、講義前の講堂内



に搭乗便の知らせがない。搭乗ゲートすらまだ何番ゲートか不明である。飛行機が二時間以上遅れているのだが、焦る様子はない。日本の定時運行と違い、ゆったりとした時間の流れなのであろう。一人旅をしている私としては、いつ案内が始まるのだろうかと不安で仕方が無いが、どうしようもないので空港でインドネシア料理を食す。スパイスの効いた鶏肉の照り焼きのような料理が出てきた。とても高い食事をしたように感じるが、日本円だと七百五十円少々である。空港内を何周もウロウロする内にやっと搭乗が始まった。朝に閑空を出発してもう夜の十時を回っていた。ジョグジャカルタに着いたのは日付が変わる頃。ボロブドゥール遺跡まであと少しである。 つづく

副住職担当「徳島新聞カルチャー教室のご案内」案内

各講座、受講生募集

■ 仏教講座「御文章(ごぶんしよう)」

「聖人一流の」。浄土真宗中興の祖、蓮如上人が門信徒へ宛てた手紙が『御文章』です。宗祖、親鸞聖人の念仏の教えをやさしく説かれた『御文章』を、原文に沿って読み解き、仏教とは何か、念仏とは何か、一緒に学んでまいりましょう。

● 毎月第3金曜日 10時～11時半 月額2500円(税別)

【教室・申込先】徳島新聞カルチャーセンター徳島本校

徳島市川内町平石若宮92-4

TEL 088-665-8500

■ 親鸞聖人と「歎異抄(たんにしよう)」

「悪人こそが救われる!」「歎異抄」には昔から多くの人々の心をひきつけてやまない言葉がまつまっています。人間らしい矛盾を抱えながら生き抜かれた親鸞聖人の言葉を丁寧読み解きあじわってまいります。

● 毎月第2月曜日 13時半～15時 月額2500円(税別)

【教室・申込先】教室は、阿波おどり会館内

申込は、徳島新聞カルチャーセンターさごう校

徳島市寺島本町西1-5さごう徳島店9階

TEL 088-611-3355

※両講座はこれまでのNHKカルチャー教室から徳島新聞カルチャー教室へ移りました。

令和元年 年忌表

1周忌	平成30年
3回忌	平成29年
7回忌	平成25年
13回忌	平成19年
17回忌	平成15年
25回忌	平成7年
33回忌	昭和62年
50回忌	昭和45年
61回忌	昭和34年
100回忌	大正9年
150回忌	明治3年
200回忌	文政3年
250回忌	明和7年
300回忌	享保5年

過去帳・お位牌をお調べください